

稲荷神社

経済学部
経済学科 2年

伊藤 洋佑

いつものどかな午後に響いて聞こえてくる笑い声
耳をすませば微笑みが自然にこぼれ落ちてゆく
今日は何をして遊ぶのかな？
どんな語り部を見せてくれるのかな？
子供になったかのように
心舞い踊る
ここからは触れることは叶わないけれども
あなた達の遊ぶ姿が
私の心をらんと照らしてくれる
遅くまで遊んでおゆき
疲れるまで遊んでおゆき
時間を忘れるほどの笑顔を連れて行って
健やかな背中から伝わる無垢な心に幸せあれと
静寂たゆたう尻尾で紡ぎながら
私はここで見守っているから

少しずつあなた達は大きくなっていくと
この神社に遊びに来てくれることが少なくなって
けれども
まだ遊びに来てくれる子の
階段を昇っているような姿を一目映すと
まるで親になったかのような
不思議な気持ちが溢れ出て来る
時は止まってくれないのに
遊戯の影はあの日のままで
でも、その時の流れは
あの子達が人生を歩んでいる証
遅くまで遊んでおゆき
疲れるまで遊んでおゆき
何かを見つけたい探究心をその手に握って
目を浴びて煌めく横顔は
大きくなっても無邪気なところは変わってなくて

大人になってもそれだけではどうか忘れないで
四季の歯車は留まることを知らずに
巡り回り続き
また一人
また一人と
遊びに来なくなつて
気がつけば
閑古鳥の歌が神社に鳴り響いていた
春の昼寝に
微笑みながら見守っていたこと
夏の喧嘩に
少しだけハラハラしていたこと
秋の紅葉といちようのプール遊び
冬將軍にも負けない笑い声
ある日

大人になった一人の子がやって来た

これまでのこと

これからのこと

そして最後に一言

想い出をありがとうと笑顔で語ってくれた

こうして

人は

歴史を

想いを

繋げていくのだろう

気をつけておゆき

諦めないでおゆき

小さな頃に手に入れた

想い出を聴きながら

大きくなった背中に

静かに

でも

力強く

巣立ちの歌を詠みましよう

前に前に進んでおゆき

あすなろの道を進んでおゆき

たまにでもいいから顔を見せて

辛いのなら謡おう

嬉しいのなら謡おう

あなた達のこれからの祈ることはできるから

ある日のうらかな午後

神社に響き渡る

新しい笑い声

遅くまで遊んでおゆき

疲れるまで遊んでおゆき

今度は

この子達の背中を見守ろう